

学校教育目標	夢と志を育む因北小教育の創造		
a ミッション	(1) スクールミッション 「児童の学びあいの充実を通して習得した知識・技能を活用する授業の創造」 (2) 児童の学力・体力・生活面で、平均水準またはそれ以上の力を付ける。 (3) 地域・保護者から信頼され、応援していただける学校となる。	a ビジョン	(1) 児童に基礎的な力を付け、そのことで自己有用感を持たせることを通じて、将来的に夢と志をもつ人間を育てる。 (2) 児童に基礎的な力をつけることによって、地域・保護者の信頼を得る。

評価計画				自己評価						学校関係者評価			改善計画			
学	力	b 中期経営目標 (平成29年度末までに)	c 短期経営目標 (平成28年度末までに)	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 評価			l コメント	m 改善案
							g 達成値	g 達成値				適性	適性でない	分からない		
学 力	学校全体の決めごとを必ず守り、児童に、おおむね県または全国平均レベルの力を付ける。	「標準学力調査」で、対象の全ての学級が、国語・算数共に県平均※以上となる。 ※全国平均値でも可	「標準学力調査」で、24項目(12学級×2教科)中、16項目で県平均※以上となる。	①音読・ます計算を中心としたチャレンジタイムを実施する。 ②日々の授業において、根拠を明らかにした言語活動を行う。	「標準学力調査」で、24項目(12学級×2教科)中、16項目で県平均以上	100%	100%	42%	63%	C	◎研修を行った結果、ます計算や音読と、全学年が統一したチャレンジタイムを実施することができた。 ◎児童がチャレンジのやり方を習得し、主体的に取り組む姿が見られてきた。 ◎授業スタイルを提示することで、より根拠を明確にした発言ができる授業改善に取り組んだことで、「根拠」を意識しながら発言する児童が増えた。 ◎計算・読解力・思考力の評価テストにおいて、伸びは見られるものの、結果が目標値に達成していない。 ◎根拠を明確にしながら発言することができる児童の割合 指導者による行動観察 75.2%【目標値80%】 児童自己評価 75.5%【目標値80%】	3			・根拠を明確にすることは、大変難しい目標だと思う。指導者・児童共に、この高い目標に向かって挑戦して欲しい。 ・8月の資料と比べ、改善点が多くある。取組の成果が出ている。 ・学力テストの結果が、目標値まであと少しである。チャレンジタイムの工夫等、先生方が結果を出すために工夫・改善しようとしていることがよく分かる。	・一人一人の学習の定着状況を把握し、ポイントを絞った指導を行う。 ・チャレンジタイムにおけるB問題への時間を確保する。 ・児童全員が思考する授業の工夫に取り組む。
		「新体力テスト」96項目(全学年男女別)のうち、80%=77項目で県平均以上となる。 ★H27本校は66項目だった。	○「新体力テスト」96項目中73%=70項目で県平均以上となる。	①新体力テスト結果を分析し、課題を焦点化して取組を進める。	「新体力テスト」96項目中73%=70項目で県平均以上	100%	86%	104%	104%	A	◎年間を通じてのサーキットトレーニング ◎新体力テスト再測定の実施・・・県・全国平均を上回った項目73/96【目標値+3項目】 ◎外遊びの実施(全学級が計画的に週1回以上) ◎重点的に取り組む種目の選定 →サーキットトレーニングの改善(ボール投げ)	3			・重点種目を決めて取り組むことにより、成果が表れやすくなる。児童にとっても、目標が持ちやすい。 ・12月は、平均を上回っている種目が多くある。家庭でも外遊びを奨励する等、今後も児童の体力向上のための取組を進めて欲しい。 ・種目によっては、体力テストの結果がすぐに表れないこともある。今後も継続して、取組を進めて欲しい。	・PDCAサイクルを活用し、新体力テストの苦手種目への重点的な取り組みを行う。 ・家庭と連携し、体育の宿題を継続的に出していく。 ・ボール投げなど、練習と合わせ、投げ方等の基本的な指導を行う。
		人に好かれる子(あいさつをする/約束を守る/いやなことを行わない)に関わって、児童・保護者の肯定的評価が90%以上とする。	人に好かれる子(あいさつをする/約束を守る/いやなことを行わない)に関わって、児童・保護者の肯定的評価が80%以上とする。	①「あいさつ名人」・「そうじのプロ」の取組を実施する。 ②取組について、児童に対して肯定的評価を行う。 ③生徒指導だより等を通して、保護者に成果を発信する。	人に好かれる子(あいさつをする/約束を守る/いやなことを行わない)に関わって、児童・保護者の肯定的評価が80%以上とする。	100%	113%	114%	114%	A	◎「自分からすすんであいさつしている」児童アンケート 89.1%【目標値 +9.1ポイント】 ◎「児童は、学校や地域で挨拶をしている」保護者アンケート 87.8%【目標値 +7.8ポイント】 ◎「約束をしたことを、守っている」児童アンケート 92.0%【目標値 +12.0ポイント】 ◎「友達となかよく遊んでいる」児童アンケート 95.0%【目標値 +15.0ポイント】 ◎「児童は、友だちとなかよく遊んでいる」保護者アンケート 93.2%【目標値 +13.2ポイント】 ○学校の取組を保護者に細かく伝えるとともに、児童に対してより一層の指導の充実を図る。	3			・挨拶をしっかりと。礼儀正しくする。児童の様子を見ていると、大変良いと感じている。今後も取組を進めて欲しい。 ・履物揃いの結果はどうだったのか。学校だけでなく、家庭の様子も知りたいと思った。 ・地域では、児童が進んで挨拶をしているとは言えない。児童から挨拶できるようにすれば良い。	・意欲付けを図り、真似をしようとする児童を増やすために、挨拶ができていない様子や礼儀正しさと褒められたことを、全校及び各クラスでこまめに知らせ、評価するようにする。 ・学校だより・生徒指導だより等で地域・保護者に取組を発信し、地域・家庭が一体となった取組をする。
「因北小学校授業スタイル」が機能している学級を、100%とする。	質問「授業では、解決しようとする課題について、「なぜだろう」、「やってみよう」、「やってみよう」と思います。」の肯定的回答の割合を、80%にする。	①研究部と連携し、職員間で議論を通して「因北小授業スタイル」の徹底を図り、発信、実践していく。	児童アンケート「授業では、解決しようとする課題について、「なぜだろう」、「やってみよう」、「やってみよう」と思います。」の肯定的回答の割合を、80%にする。	100%	100%	80.7%	101%	A	◎「授業では、解決しようとする課題について、「なぜだろう」、「やってみよう」と思います。」県「基礎・基本」調査(5年) 70.6%【目標値-9.4ポイント】 児童アンケート(4~6年) 80.7%【目標値+0.7ポイント】 ◎「因北小授業スタイル」に関わる校内研修の実施 ◎目指す子ども像の共有化 ◎学校評価(保護者アンケート)：肯定的評価高い(別紙参照)	3			・授業改善のために様々な取組をしていることがよく分かった。 ・肯定的回答の割合が増えているということは、授業改善の効果が出ているということ。今後も、取組を進めてもらいたい。 ・思考力を高めることが課題だと分かった。その課題を克服することを期待している。	・研究部と連携し、今後も思考力を高める取組を進めていく。 ・目指す子ども像「主体的に学ぶ児童」を取組の中心に据える。来年度に向け、そこを目指すためのカリキュラムマネジメントを行う。		

【自己評価 評価】

A : 100 ≤ (目標達成)

C : 60 ≤ (もう少し) < 80

B : 80 ≤ (ほぼ達成) < 100

D : (できていない) < 60

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。○：自己評価は適正でない。ハ：わからない。